

「視覚障害者のボランティア参加 実践報告書 ～東京オリンピック・パラリンピックとその先に～」完成！ 視覚障害者がボランティアとして活躍するための7つの提案などを掲載

一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター（以下、ボラサポ）は、筑波大学関連機関の協力のもと、視覚障害者によるボランティア参加活動をコーディネートしてきました。これまでの取り組み内容に関する報告会を12/16(水)にオンラインで開催し、この度『視覚障害者のボランティア参加 実践報告書 ～東京オリンピック・パラリンピックとその先に～』としてまとめました。

本件の幅広い周知についてご検討の程、何卒宜しくお願いいたします。本件に関するお問い合わせは、広報担当倉田(070-7514-4529)、小久保(070-2264-4371)までお願いいたします。

■実践報告書 目次

- ・はじめに - 日本財団ボランティアサポートセンター 事務局長 沢渡 一登
- ・視覚障がい者がボランティア活動を行う意義 - 日本パラリンピック委員会 委員長 河合 純一
- ・視覚障害者のボランティア参加 実践報告
 - 1.概要 2.視覚障害者ボランティアセミナー
 - 3.視覚障害者のボランティア活動 4.アンケートから見る視覚障害者のボランティア参加
- ・視覚障害者がボランティアとして活躍するための7つの提案
- ・教育者から見る、視覚に障害がある人となない人が一緒にボランティア活動をすることの意義
 - 筑波大学理療科教員養成 前施設長 宮本 俊和
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックで視覚障害のある人となない人が共に活動することの可能性
 - 日本財団ボランティアサポートセンター 参与、文教大学人間科学部 准教授 二宮 雅也
- ・[付録資料] ボランティアガイド～視覚障害者サポート編

実践報告書の本編 PDF はボラサポ公式サイトや右の QR コードからからご覧いただけます。
冊子版をご入用の方は、別途ご連絡ください。

<http://www.volapapo.tokyo/column/report/4013/>



■視覚障害者のボランティア参加を推進してきた経緯

東京2020大会のコンセプトの一つに「多様性と調和」が挙げられている中、ボラサポでは情報保障の面でボランティア参加に困難のある視覚障害者の方々への各種取り組みに力を入れてきました。

筑波大学理療科教員養成施設の宮本俊和前施設長（現筑波大学非常勤講師）と協力し、視覚障害のある方々のボランティア参加促進に取り組んでいます。

■これまでの取り組み

- ・視覚障害者向けの東京2020大会ボランティア応募説明会を実施
パラリンピアンの方河合純一さん（現JPC委員長）と共に視覚障害者の方向けの説明会を企画し、大会ボランティアへの参加を呼びかけました。
- ・視覚障害者のボランティア参加機会の提供（計5回）
 - ・ParaFes 2018(6,000 人来場、2018年11月)
 - ・パラ駅伝 2019(17,500 人来場、2019年3月)
 - ・東京おもちゃショー内のパラスポーツ体験ブース(11,000 人来場、2019年6月)
 - ・パラリンピック1年前イベント（新豊洲サマーナイトフェス、20,000 人来場、2019年8月）
 - ・ParaFes 2019(6,000 人来場)
- ・視覚障害者へのサポート方法をまとめた小冊子作成
「手を引っ張らない」など、視覚障害者のアテンドをする際の注意事項をまとめた小冊子を制作しました。



「一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター」 概要

2017年6月に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と日本財団が締結したボランティアの連携・協力に関する協定に基づき、当該協定に係る事業を実施する団体として設立されました。当財団は、ボランティア育成を通じた2020東京大会の成功と、大会後に繋がるボランティア文化の醸成を目指しています。

所在地：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 代表者：渡邊 一利（笹川スポーツ財団 理事長） 設立：2017年9月29日